

一声社：TEL03-3812-0281/FAX03-3812-0537

今日は何の日？

12月3日は、カレンダーの日（1987年制定）、奇術の日（1990年制定）です。

閑話休題—どんだけ老けてる？②

まだまだ元気いっばいだと自分では思っていた40歳代。

都営バスの中で中学生に言われた言葉。

「どうぞ。座ってください」

かなりショッキングな言葉である。

「えっ？」

おやじ狩りにでも遭うのかと思っていたのに、余りにも想像と違う言葉で脳がうまく反応しない。

「座ってください？この床に？土下座？いや待て、そんなはずはない。つまり、これは…、という事は…、要するに…」

びっくりして周囲を見渡す。そもそも車内に立っている人はほとんどいない。彼の近くに立つのは、私一人。つまり……。

僕が席を譲られたのか！まだ40歳代のこの僕が！中学生に「座ってください」と言われたのか！

驚きのあまり声を失った。しかし、その少年はじっとこっちを見ている。こちらの反応をうかがっているのだ。気が動転してうまく話せないが、何とか声を絞り出さんと！

「ありがとう！でも、次で降りるから大丈夫やで。ありがとうな」——慌てて降車ボタンを押し、次のバス停で降りた。

そうか、あの中学生はこう思ったんやな。「お年寄りが僕の隣に立った。席を譲りたい。でも、なかなか言い出せない。どうし

よう。汗を拭いてる。疲れているのかな？なんて言えば良い？タイミングは？」

そうやって逡巡しながら、僕の顔をチラチラ見ていたのだ。何というええ子やろ。その期待に沿って座ってあげなアカンかったんちゃう？いや、いくら何でも素直に座れへんし…。でも、善意を無にしたらアカンやろ。あの対応でよかったんやろか？う～ん。

そんな事を考えながら、春日通りをひたすら歩く。真夏の日差しは、お肌全体に刺すような痛みを覚える。まだ着かない。まだまだ歩かなアカン。

何で、そんなに歩かなアカンの？

慌ててバスを降りたので、目的の停留所まであと3駅くらいあるのだ。辛い、暑い、汗が出る、足が痛い、喉が渇く…。でも、次のバスを暑い中じっと待つのも辛い。

吹き出す汗と立ち眩みに絶えながらひたすら歩く大都会・東京。しかし、その汗は決して冷や汗ではない。他人に無関心と思えたこの大都会で、人情の温かさに触れた汗腺が緩んでしまったのだ。まあ、ただ単に暑いだけ—という説もある。

この本はお勧めです！

『メリーゴーランド』（荻原浩著、新潮文庫）

市役所勤務の公務員が赤字のテーマパーク再建を託される。「会議をいつ開くか」という相談だけで一日が終わる等、公務員の方には悪いが、抱腹絶倒！

一声社 NEWS

一声社フェイスブック、やってまーす！

機械に弱く、さぼり気味ですが、時々更新中。乞うご期待！